

在宅医療連携拠点チームかまいしの取組み

連携の土壌づくりとタネまき、その成果と波及効果



平成28年10月17日
釜石市保健福祉部健康推進課
地域医療連携推進室

在宅医療連携拠点チームかまいし
連携コーディネーター 小田島史恵

在宅医療連携拠点チームかまいしの設置と関連組織図

◆平成24年7月1日 釜石医師会との連携により

厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」の採択を契機に

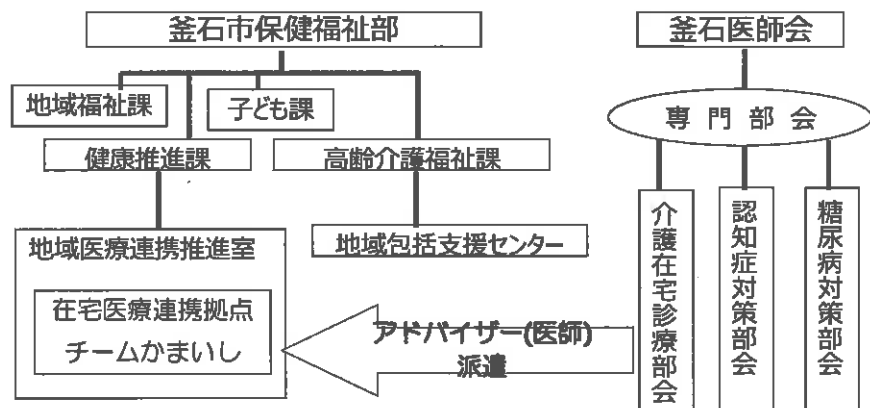
「在宅医療連携拠点チームかまいし」を設置

- 地域医療・介護連携の専門部署として、市健康推進課地域医療連携推進室に設置
- 医師会派遣のアドバイザー(医師)配置、連携コーディネーター(事務職)配置



《アドバイザーの役割》

- 事業推進に関するアドバイス
- 医療的知識の担保
- 連携コーディネーター育成とサポート ほか



財 源

平成24年度

厚生労働省委託モデル事業

在宅医療連携拠点事業

平成25年度～平成27年度

岩手県補助事業（地域医療再生基金）

在宅医療介護連携促進事業

在宅医療介護連携コーディネート事業

平成28年度～

地域支援事業(介護保険)

在宅医療・介護連携推進事業

チームかまいし事業実施概要

ア) 地域の医療・介護の資源の把握	医療介護資源リスト&マップの作成と周知、在宅医療・介護連携実態調査、地域連携だより作成
イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	職能団体毎の打ち合わせ会（一次連携）釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会（三次連携）
ウ) 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	ニーズのマッチングによる複数職種対象研修・意見交換会等（二次連携）、在宅医療連携拠点事業推進協議会、釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会（三次連携）、地域連携だよりの配付
エ) 医療・介護関係者の情報共有支援	チームかまいしホームページ・ブログ開設、サイボウズlive運用、地域医療情報ネットワーク「OKはまゆりネット」構築・運用支援
オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援	多職種向け連携に関する相談窓口設置 一般向け在宅医療に関する相談窓口設置
カ) 医療・介護関係者の研修	地域包括ケア推進フォーラム等、職能団体主催研修開催への支援(チームかまいし支援事業)、医科歯科or医科薬科在宅同行訪問研修等（二次連携）
キ) 地域住民への普及啓発	在宅医療普及啓発パンフ作成・活用、市広報誌の活用、市民公開講座、生涯学習まちづくり出前講座
ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携	釜石・大槌地域医療連携推進協議会 地域包括支援センターとの連携事業 ほか

連携の土壌づくりとタネまき

➤ 医療・介護資源の把握

- ・医療・介護資源のリスト&マップ作成
- ・チームかまいしHPで公開
- ・google mapの活用（フリー）

※一番の目的は、連携拠点が資源を把握すること。
公開は二の次。顔の見える関係づくりの下準備
資源を把握することで見えてくる課題もある。



➤ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と解決策の検討

職能団体（一職種ずつ）との打ち合わせ会の開催 ※一次連携
最も重要なタスク。これにより事業の方向性は左右される

➤ 医療・介護関係者の研修

専門職を対象とした在宅医療の推進及び多職種連携に関する意識啓発を目的とする内容の研修を1～3年目に重点的に開催

例：地域医療連携推進フォーラム、地域包括ケア推進フォーラム、歯科医師会会員対象研修、
薬剤師会理事会での説明、地域包括支援センター職員対象研修
連携コーディネーター育成研修 等

課題の抽出方法

① 医療・介護資源を把握することで見える課題がある。

あるある…人材不足・資源不足、使える資源は何か

② 地域ケア会議等で連携の課題を抽出する

「地域の課題」ではなく「地域の連携の課題」を
意図的に抽出することが必要。課題が散漫になる。

③ 多職種が一同に会する場（会議・研修等）を活用する

ワークショップの成果物から課題を抽出する

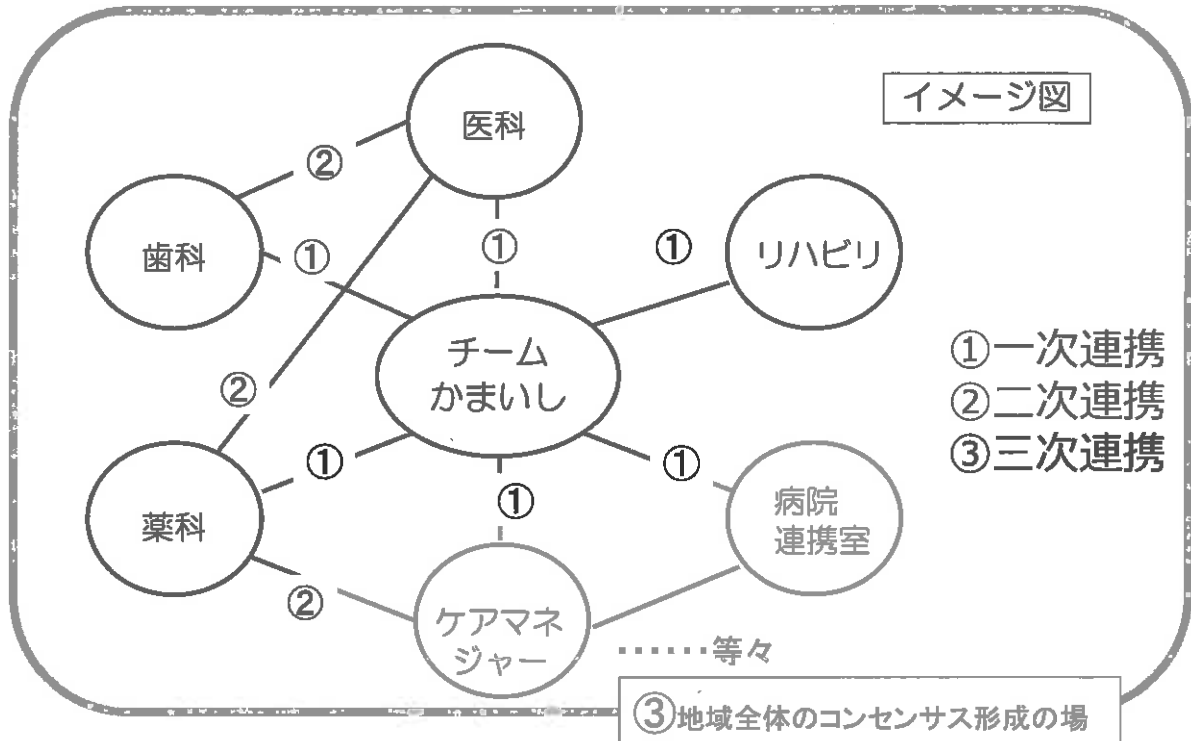
④ 各職種から課題を聞き取りする。

釜石市…職能団体ごとに数名の代表をだしてもらって、

一職種ずつ打ち合わせ会を行う。

横手市、岡山市…圏域全ての医療・介護関係機関から聞き取りを行う。

チームかまいしの連携コーディネート手法 階層別連携コーディネート



チームかまいしの連携コーディネート手法

◆一次連携（連携拠点と一職種による連携）※連携の基盤

課題の抽出と解決策の検討・実践

職能団体ごとに課題を抽出・分類・フィードバックすることで

職種内の気づきと課題の共有を促進

⇒団体自らが解決策を検討 例:在宅医療への温度差解消のためのセミナー

⇒連携拠点が職種内課題解決のための取組みを支援 ⇒連携強化

◆二次連携（連携拠点が仲介する複数職種の連携）

一次連携のニーズをマッチングすることで連携構築を支援

例:医科歯科同行訪問研修、多職種合同研修会等

⇒反省会での課題の抽出と解決策の検討・更なる実践へ

◆三次連携 地域全体のコンセンサス形成の場

《三次連携》 多職種が一同に会する機会

- ◆ 釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会
- ◆ 釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会



釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会の様子60～90人が参加

多職種連携の第一歩
顔の見える関係
づくり
連携に関する
コンセンサス
形成の場

【課題】
課題解決のための
現場レベルの連携
プロジェクトが進まない



各職種における課題の層構造 ～何故、現場レベルの連携が進まないのか～

一次連携で抽出された課題

職種Aの課題



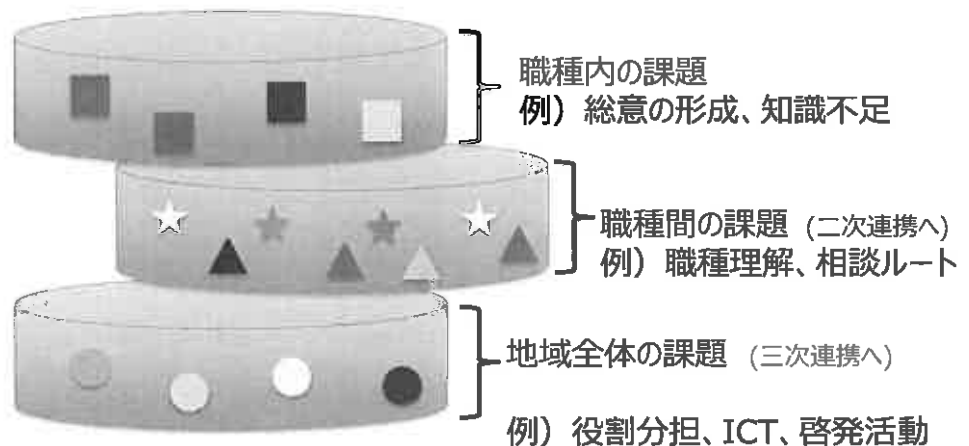
職種Bの課題



職種Cの課題



職種Dの課題



- 層の異なる課題を同一の場で解決することは困難
- 課題の分類と課題内容に応じた場・手法の選択

《一次連携》職能団体との打ち合わせ会

各職種の事情を言い出せる連携の土壌づくり&タネまき
会議ではなく打ち合わせ。笑いも絶えません。

歯科医師会と



栄養士会と



病院連携室と



ケアマネ協議会と



リハ士会と



訪看ステーションと



「釜石リハ士会」の設立を支援

一次連携のポイントと効果

～連携の土壌づくり&タネまき～

➤ 職能団体という単位にこだわりあり

- 連携に熱心な事業者・個人単位では、連携が広がらない。公平でない。
- 出席者は情報（課題・解決策案）を団体にフィードバック
- 一職種に絞ることで、他職種の目を憚らず発言しやすい

➤ 職能団体自らが課題に気が付く

- 課題の多くは自らの職種、団体、職場にあることが判明

➤ 必然的に職能団体自らが解決策を検討・実施へ

- 研修会開催など、チームかまいしが支援

➤ 連携拠点にとっては、関係職種の方々との顔の見える関係づくりの場であり、連携のキーパーソン発掘の場!!

複数職種間の課題・ニーズは
チームかまいしのコーディネートにより《二次連携》へ

一次連携で抽出された
職種をまたぐ課題のほとんど全てが

お互いの理解不足



相互理解を支援するために
2次連携をコーディネート

一次連携で抽出された課題リスト

ケアマネジャー			病院		
No	職種	発言者	No	職種	発言者
1	ケアマネ		20	看護師	院内
2	医師		21	ケアマネ	ケアマネ
3	医師		22	医師	院内
4	ケアマネ				
5	ケアマネ				
6	ケアマネ				
7	医師				
8	医師				
9	医師				
10	医師				
11	医師				
12	ケアマネ				
13	医師				
14	ケアマネ				
15	ケアマネ				
16	医師				
17	医師				
18	医師				
19	医師				
20	ケアマネ				
21	ケアマネ				
22	医師				

一次連携のいいところは他の
職種の目を気にせずに思い
切り言いたいことが言えること

二次連携 基幹病院連携室 & ケアマネジャー意見交換会

【目的】

相互理解の促進/具体的連携阻害要因の解決
/職種間のルールやコンセンサスの形成



【手法】 顔合わせ & 意見交換

【実施日】平成27年2月24日(火)

【参加者】医師、MSW、退院調整ナース
ケアマネジャー、チームかまいし

【結果】

共通の課題は人手不足!
自己反省しつつ、相互理解を深める
機会となった。新たな課題も抽出

二次連携 病院連携室等 入退院に関わる職員情報交換会

【地域のコンセンサス】県立釜石病院（基幹病院）を守る!!

【一次連携で抽出された課題】

地域における各病院の役割分担が未だ不明確
病院間の顔の見える関係できていない 等

【目的】①顔の見える関係づくり②各病院の入退院の現状を共有する。
③入退院に関する地域のコンセンサス形成



【実施日】平成28年8月8日（月）

【参加者】圏域内6病院の入退院調整に関
わる職員（医師、看護師、MSW、事務等）
チームかまいし

【結果】目的の①②は好感触!!

③については回数を重ねる必要あり

《二次連携》薬科リハ合同研修会

日時：平成28年8月12日（金）19時～
参加者：44名（薬剤師23、リハ士13、他職種8）

①講演「あなたの患者さんは本当に吸入できていますか？」
講師：加藤淳氏（吸入療法アカデミーやまがた幹事）

②講演「吸入リハビリテーションと吸入薬」
講師：菅原章氏（呼吸療法認定士）

③フロアディスカッション
座長：寺田尚弘氏（チームかまいしアドバイザー）



◆ニーズのマッチング◆

リハ「身体を動かしたいのに薬でトローンとなっている人がいる。薬の副作用や重複が気になる。気軽に相談したい⇒薬剤師との連携が必要」

薬科「薬剤師の職能を他職種に理解してもらいたい」

◆リハ士会の役割◆
会員への周知、講師派遣
当日運営補助

◆薬剤師会の役割◆◆
講師折衝、会員への周知
当日運営補助

◆連携拠点の役割◆◆◆
他職種への周知、参加者とりまとめ、
事前準備、当日運営、司会進行

釜石薬剤師会との一次連携

平成24年度 9/3、12/4、1/16

平成25年度 7/30、1/15

平成26年度 7/25、1/29

平成27年度 8/31、9/16

平成28年度 4/21



ケアマネジャーの
顔が分からない

どこに相談
すればよいの？

ケアカンファレンス
に呼ばれない

訪問のきっかけが
つかめない



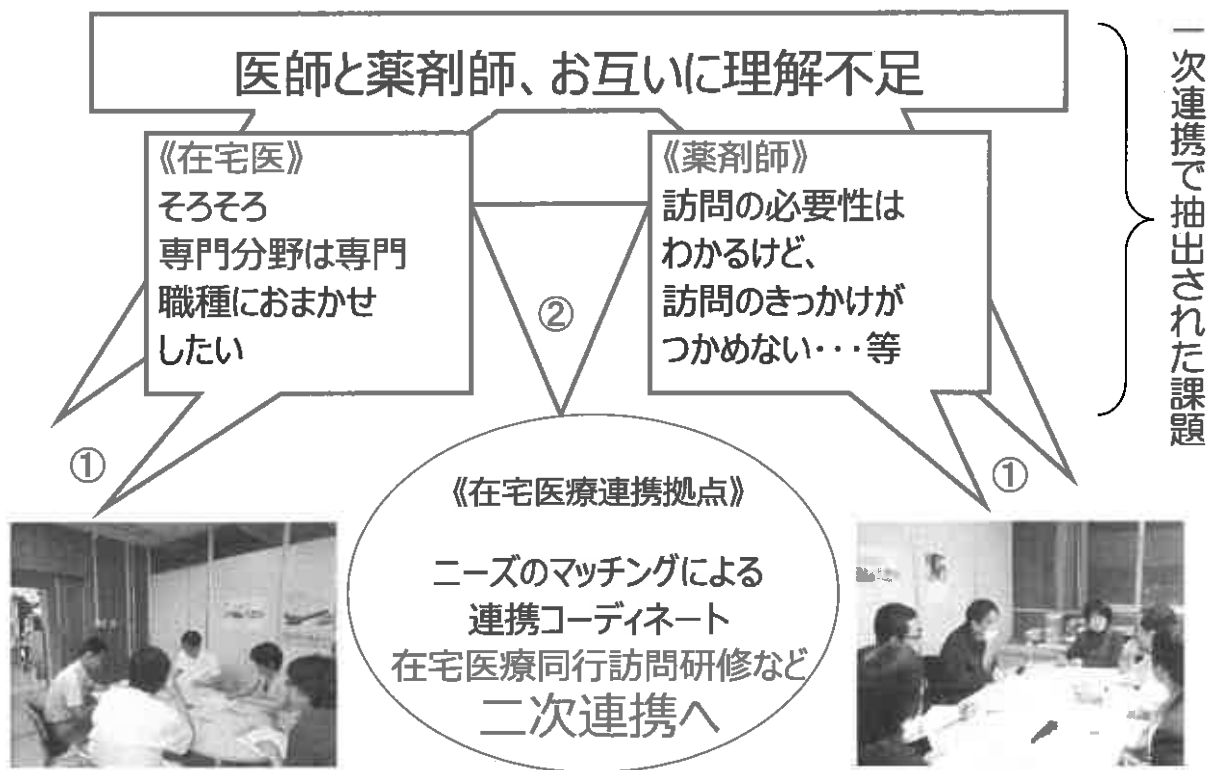
平成24年度抽出課題

病院薬剤師と
薬局薬剤師の連携

「訪問指示」の
処方箋が来ない

薬剤師の職能が
認知されていない

チームかまいしの連携コーディネート 医科薬科編



《二次連携》 医科薬科在宅医療同行訪問研修

【一次連携で抽出された課題】

医科と薬科、病院薬剤師と薬局薬剤師お互いに理解不足
必要性は理解できるが在宅への一歩が踏み込めない。
専門分野は専門の職種に対応してもらいたい、等



【研修目的】

医師と薬剤師、薬薬の相互理解推進／在宅医療の連携手法を探る

【研修実績】

	テーマ	薬剤師数	患者数
H25年度	残薬管理	4名	17名
H26年度	服薬指導	4名	35名
H27年度	フィジカル アセスメント	4名	34名



3年目を迎えた医科薬科在宅医療同行訪問研修

- ✓ 医師の診療(問診、時間、処方決定など)をイメージできるようになった。
- ✓ カルテを見ることができた。(検査値、病名など)
- ✓ 患者宅での患者の様子(外来との違い)が良く分かった。
- ✓ 医師の診療決定(患者の選択)を知ることが出来た。

薬剤師が在宅医療現場でやるべきことはたくさんあった。

釜石薬剤師会資料より

岩手県薬剤師会「患者のための薬局ビジョン」推進事業

- ◆ 市町村の地域包括支援センター等と連携を図りながら、薬剤管理に問題があると思われる患者に対し、薬剤師と保健師等が同行訪問を行うことにより、在宅患者への薬学的管理・服薬指導を実施し、在宅患者の薬に対する理解を深めるとともに、薬物療法の有効性及び安全性の向上を図ることを目的とする。

【事業の流れ】

- ① 包括支援センターにおいて「薬に問題がある」と思われる患者を選定する。
- ② 包括支援センターは、薬剤師の同行訪問に関する説明を行い、訪問許可を得る。
- ③ 包括支援センター職員は、患者に希望する薬局を選んでもらう。
- ④ 包括支援センターは、患者が希望する薬局の訪問日の日程調整を行う。
- ⑤ 包括支援センターと薬局薬剤師が患者宅を訪問する。
- ⑥ 第二回検討会(各患者の解決に向けてのアクションプランの作成)
- ⑦ 包括支援センターと薬局薬剤師が患者宅を訪問する。

「チームかまいし」薬科連携から生まれた事業

釜石薬剤師会資料より

《二次連携》

医科歯科在宅医療同行訪問研修 H25～



歯科医師

歯科衛生士



医師

歯科医師



ケアマネ

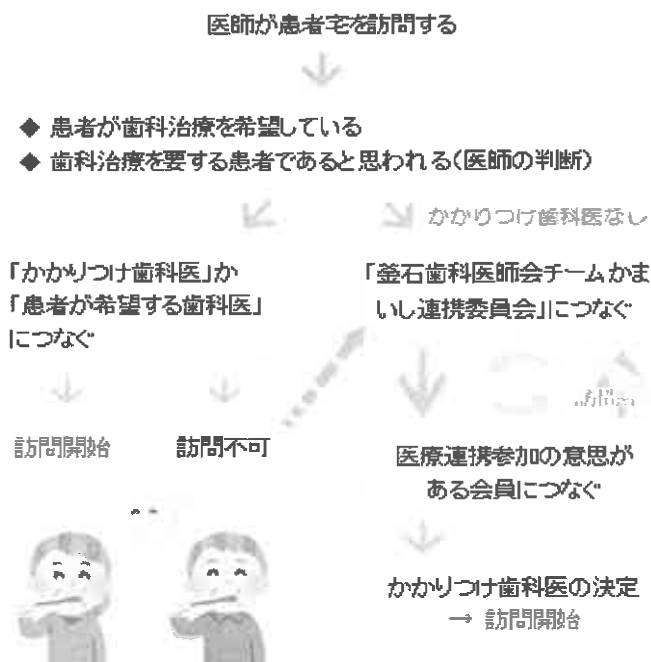
歯科医師

家族

	歯科医師数	患者数
H25年度	3名	12名
H26年度	2名	5名
H27年度	4名	24名

一次連携打ち合わせ会 & 二次連携の成果物 在宅療養患者の歯科紹介システム

訪問歯科診療に関する医科歯科連携フロー



連携の土壌づく
りとタネまきの
結果

釜石歯科医師会
が主体的な取り
組みを開始

現在では、「多職種委
員会」として
医科だけでなく多職種
に対する連携の窓口
としても機能

釜石歯科医師会の主体的な取り組みによる成果物 歯科往診依頼書と歯科治療依頼スクリーニングシート

平成 年 月 日

歯科往診依頼書 (宛先:釜石市歯科医師会 FAX 0193-23-2223)

ご依頼元	診療所名 氏名 電話番号	FAX
フリガナ	受診年月日	性別
患者様名	M・T・S	歳
住所(向宅・施設?)	電話番号	

ご依頼内容

<input type="checkbox"/> 歯が痛い	<input type="checkbox"/> 歯が動く	<input type="checkbox"/> 噛めない	<input type="checkbox"/> 口が汚れている	<input type="checkbox"/> 傷がある
<input type="checkbox"/> 入れ歯が合わない	<input type="checkbox"/> 口が臭う	<input type="checkbox"/> 飲み込みが悪い	<input type="checkbox"/> むせる	<input type="checkbox"/> 口が腫く
その他()				

以下、お分かりになる事項でお答えください

全身疾患	1)	歯痛歴
	2)	
	3)	
既往歴	有・無	医科機関名
特記事項		

かかりつけの歯科医師がいる() 先生) いない
見て欲しい歯科医師がいる() 先生) どの先生でもよい

依頼書 二依頼に関する患者様の承諾(本人または家族の署名、押印)をお願いします。

印

歯科治療依頼スクリーニング

※治療の必要後のご判断にご利用ください

<input type="checkbox"/> 歯が痛い	<input type="checkbox"/> 冷たいものや熱いものがしみる
<input type="checkbox"/> 歯に穴があいている、黒く空いている	<input type="checkbox"/> 歯茎の赤み腫れがひどい
<input type="checkbox"/> 歯ぐきから出血したり歯ぐきが腫れている	<input type="checkbox"/> 歯ぐきがぐらぐら動く
<input type="checkbox"/> 口臭がひどい	<input type="checkbox"/> お口の中に白い斑点がある、赤くただれている
<input type="checkbox"/> 入れ歯が痛い、使用していない	<input type="checkbox"/> 入れ歯を入れたら痛い
<input type="checkbox"/> 入れ歯が落ちたり、はずれやすい	<input type="checkbox"/> 入れ歯が欠けたり、こわれている
<input type="checkbox"/> 入れ歯のバネのかかる歯が抜けている、欠けている	<input type="checkbox"/> 入れ歯の当たる歯ぐきや舌や頬の粘膜に傷ができています



※チームかまいしのHPからダウンロードできます。
<http://teamkamaishi.ec-net.jp/>

《二次連携》 ケアマネ薬科合同研修会 ～最も波及効果が大きく表れた二次連携～

【一次連携で抽出された課題】

ケアマネジャーの顔を知らない。サービス担当者会議に呼ばれない。
薬剤師の職能が理解されていない。等

【目的】自分の職能を再確認する。お互いを理解する。
地域包括ケアにおける2職種の共通の目的を確認する。

【手法】顔合わせ & グループワーク



【結果】お互いに理解不足であることを再認識。声には出さなかったがケアマネジャーも薬剤師との連携を望んでいた。どちらの職種も地域包括ケアの重要な担い手であることを認識

【成果】ケアマネジャーと薬剤師の連携始動!!

これを契機に薬剤師がサービス担当者会議に呼ばれるように...

波及効果①

2次連携から発展した連携。 介護福祉連携グループ「かだれ」の誕生!!

やっていることは飲み会ですが、ぼっち顔の見える関係が構築
まちの活性化に寄与しているという自負あり。
釜石地域の人材不足解消のきっかけになればいいなあ・・・ by主宰者



波及効果②

ケアカフェの開催

「ケアカフェ」とは、
カフェを訪れるように気軽に参加できる、
医療者、介護者、福祉者のあつまりです。
多職種顔の見える関係づくりや日頃の
ケアの相談場所として提案されています。

主宰者は「かだれ」と同じ
介護職4名と薬剤師2名

アルコールを飲めない人でも参
加できるものはないかと考えて
行きついたのがケアカフェ



かまいし・おおつち地域医療情報ネットワーク (OKはまゆりネット)

◆主な機能

- ☆他の病院や医科診療所から県立釜石病院の診療の予約
- ☆ 〃 各種検査や栄養指導の予約
- ☆患者の医療介護情報を医療機関・施設間で共有

◆加入施設

病院	6/6施設	(100%)
医科診療所	17/18施設	(94.4%)
歯科診療所	13/17施設	(76.5%)
調剤薬局	18/20施設	(90.0%)
介護サービス事業者	25/47施設	(53.2%)



◆運営主体

釜石医師会を事務局とする協議会 事務補助：釜石保健所、釜石市、大槌町
H27年12月2日特定非営利法人設立へ

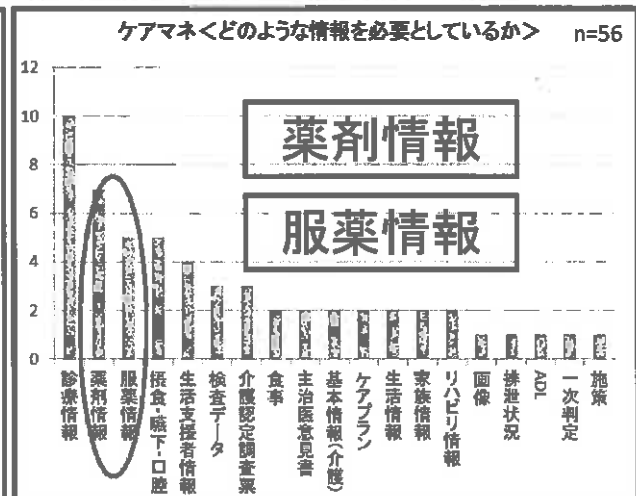
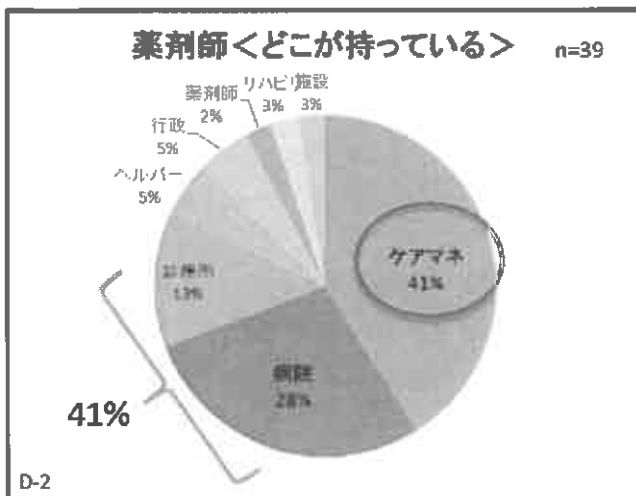
OKはまゆりネット【3rd stage】チームかまいし支援概要 医療・介護関係者の情報共有支援のために

◆ワークショップ開催「私の欲しい情報」(H26.9.4)

目的：ニーズ調査

どんな場面で、どこが持っている
どんな情報が欲しいのか？

方法：同職種毎のグループワーク (KJ法)



チームかまいしの取組み 《まとめ》

- 釜石市では、医療知識の質的担保のため、釜石医師会との連携によって在宅医療・介護連携に関する事業を推進しています。
- チームかまいしでは、**連携拠点の役割りを各職種の専門性が発揮できる環境や関係性を整えることと捉えて、各職種から課題・ニーズを抽出し、解決のための「手法」や「場」を検討し、二次連携をコーディネートしています。**
- 一方、抽出した課題をフィードバックすることで、団体自らも解決策を検討し、主体的な取組みを実践しています。
 - ※連携拠点のニーズにマッチする場合は、役割分担により取組みを支援
- **連携拠点を設置して5年、連携の土壌づくりとタネまきを行ってきた結果、釜石保健医療圏では連携当事者(地域包括ケアの担い手)の主体的な取組みが推進されています。**